平成２８年度　第２回　国見町子ども・子育て支援推進協議会　会議録

と　き　平成２９年２月２１日（火）１０：３０～１１：５０

ところ　くにみ幼稚園　会議室

《出席者》１１名

委員：五十嵐貴哉、金田由美、松浦由美子、大槻薫、

柴田千賀子、菊地勝彦、佐藤正美、鈴木智子

　　（欠席：曵地信一、八巻由季子、鈴木由実、髙橋修一、八巻忠一）

事務局：岡崎教育長、中田課長、小野係長、高橋主任主事

進行：中田課長

1. 開会
2. くにみ幼稚園　参観

園児の活動の様子や年中児の英語活動などを参観

1. 教育長あいさつ

質の高い生活を送れるよう、家読みのすすめや英語活動の推進をしている。来年度は、子どもたちの運動不足対策として、遊びの中に運動を取り入れる事業を計画している。

1. 会長あいさつ

　　　全国的に見て、新制度が広く周知されていない現状がある。その中で、国見町の子ども・子育て支援は現状の課題を踏まえて、質の高い保育を目指して細やかな配慮がされている。

協議会の中で、課題が見えてくると思うので、次年につながる意見をお願いします。

1. 議題

（１）平成28年度後期子ども・子育て支援の取組状況について

　　・幼児教育課　事務点検・評価表、点検評価シート

事務局より説明

佐藤委員：点検評価表2ページの特別保育や預かり保育の利用人数は5ページの表のどの部分に該当するのか表の見方を教えてもらいたい。

小野係長：2ページの特別保育事業は、5ページの藤田保育所の延長保育と一時利用、子育て支援センターは、4ページの子育てひろば・イキイキ子育てクラブ・ニコニコ相談会の部分、幼稚園一時預かりは、5ページのくにみ幼稚園の一時預かりに該当します。

柴田委員：こんにちは赤ちゃん事業の未実施4名は、どのような経緯で未実施になったのか教えてもらいたい。

小野係長：保健師に確認したところ、里帰りのため、二人目以降のため、ニコニコ相談会で相談したため、という理由でそれぞれ訪問していないと伺っている。

金田委員：今回は幼稚園、前回は保育所を参観したが、学童も参観出来たらよい。

柴田委員：前向きに検討していただくということでよいでしょうか。

事務局：はい。

五十嵐委員：①乳幼児育成事業は申請者がゼロだが、該当する人がいないのか②保育所の保育士配置の現状を教えてもらいたい③待機児童の方々に対し、何か対応しているのか④子どもクラブで10月から6年生が0人になっているが何かあったのか。

小野係長：乳幼児育成事業に該当するためにはいくつか条件があり、条件に合っている方が0人だった。国の基準で保育所等は既に減免になっている。国基準に該当しない事業が預かり保育料になるが、今年度該当者がいなかった。

中田課長：毎年募集はしているが、なかなか応募がない状況。その中で今いる保育士がシフトを工夫して何とかやっている。

待機者は現在、3名とも求職中の方であり、求職活動をする際には「一時預かり」を利用していただくようお願いしている。

子どもクラブの6年生は夏休のあたりから自宅で過ごすようになった、習い事を始める児童の増加等、友達がやめることで、連鎖的にやめるということも多い。

（２）平成29年度幼稚園・保育所等入所見込について

事務局より説明

（３）その他

　・各施設アンケート結果

　・国見学園アクティブプラン・・・保育所、幼稚園

　・国見町子育て支援サービスに対する苦情等対応事務処理要綱

事務局より説明

金田委員：苦情処理について、すでに活動しているということだが、3名の委員の方に話はあがっているのか。公表することについては、どうなのか。

中田課長：まだあがっていない。また、保護者が公表することを了解した場合に公表される。

柴田委員：匿名性・プライバシーは守られるということですね。慎重に対応下さるということですね。また内容もクレームだけでなく、クレームに発展する可能性のあることも含まれると思う。

金田委員：苦情等という言葉が引っ掛かる。ちょっとしたことが言いにくくなると思う。

中田課長：要綱ではそうなっているが、26ページの保護者に配付した通知は、「意見・要望」を先頭に持ってきた。あまり表に出したくないと思い、そういった題名にしている。現時点で、何かあったら保育士や先生に直接話してもらい、それでも言えないようなことは、事務局や第三者委員を窓口にしている。

金田委員：私の息子も5年生で男の子なので、子どもクラブに友達が行かなくなると一緒に行かなくなった。毎年アンケートをしているので出すのだが、そこでも書けなかったりする人もいると聞く。そういう意味で設置はよいことだと思う。

柴田委員：ネーミングによっては意見を言いやすくなるということもあると思うので、事務局で考えていただきたい。

五十嵐委員：事務処理要綱を作った背景はあるのでしょうか。

中田課長：毎年、県による保育所の監査があり、第三者委員の設置について指摘されてきた。それを踏まえて、保育所だけでなく、全ての子育て支援事業を網羅して、サービスに対する受付をしようとなった。本来社会福祉施設も含むが、あえて幼児教育課管轄のものだけとした。

五十嵐委員：利用する方、される方の立場があるので、互いに仲よくしていく必要がある。お願いするところはする、協力するところはするということが必要になると思う

柴田委員：自己点検評価だけでは、見えてこないこともある。身内には言いづらいことも第三者から言ってもらったほうが良い事もある。双方にメリットもあるため、こういった場で意見を頂きながら進めていきたい。

　国見学園について、画期的で魅力的な取り組みだと思う。今後は広報で広く周知していってほしい。また、子ども向けのパンフレットがあると良いと思う。

1. 閉会

中田課長：いただいた意見を精査しながらより良い幼児教育を目指したい。

岡崎教育長：第三者委員会について、いじめ問題等でもそうであるが、学校だけでなく、相談窓口は多いほうが良いことと、解決法を客観的に冷静に見てもらうという意味でも第三者委員会の設置はお互いによいと思う。地域ぐるみで子どもたちを育てるということが大切。また、中学まででなく、ヤングカレッジなどの形で、高校や大学につなげていくことも必要だと考えている。

中田課長：以上で、平成28年度第2回国見町子ども・子育て支援推進協議会を閉会いたします。

ありがとうございました。

11：50終了